

2013年5月14日

竜巻被害を受けた茨城県つくば市へ自然災害用防災ガラスを寄贈 ～突風で割れても飛散しないガラスで避難所の安全を確保～

AGC 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、2012年5月に竜巻による甚大な被害を受けた茨城県つくば市への支援活動として、地震や突風、台風などの自然災害発生時に効果のある防災ガラスを寄贈します。寄贈先である同市指定避難場所の吾妻小学校体育館の窓ガラス約140㎡すべてが防災ガラスに交換される予定です。

防災ガラスは、「合わせガラス」と呼ばれる構造になっており、地震や台風、突風でガラスが割れた際に、破片が飛び散るのを防ぐため、児童や避難者をガラスの破片によるケガ等から守ることができます。学校などの指定避難所において防災ガラスを採用することで、万一の自然災害時にも安全・安心を確保することが可能です。



AGCでは全国指定避難場所の安全対策普及を目的として防災ガラスを寄贈する「ガラスパワーキャンペーン」を2005年10月から実施しており、つくば市への寄贈が34か所目となります。

AGCは、今後も、安全・安心につながる防災ガラスの普及推進に努め、地域防災活動を支援していきます。

以上

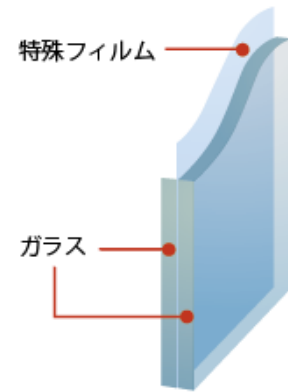
- ◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子（株）広報・IR室長 上田 敏裕
（担当：高橋 TEL：03-3218-5603 E-mail：info-pr@agc.com）
- ◎ガラスパワーキャンペーン事務局 <http://www.glasspower.jp/>
（TEL：03-3218-7762 E-mail：glass-power@agc.com）

【ご参考】

防災ガラスについて

今回寄贈する防災ガラスは、2枚のガラスと特殊フィルムを熱圧着した製品です。以下のような特徴があることから、地震や台風などの災害発生時にも避難所を安全に保ち、またガラスによる二次災害を防止します。

- ・物がぶつかってもガラスが割れ落ちにくい
- ・割れたガラスによる大きな怪我が防げる
- ・穴が開きにくいのでガラスが破損しても雨風が防げる



以 上